
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第54号（通巻第121号）

2007年1月30日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

第16回教育フォーラムのご案内

平成19年2月4日（日）に、教育人間科学部主催による教育フォーラムを、以下のように開きます。多くの方が参加されるよう、教職員、学生をはじめ、広く紹介をお願いします。

（以下、教育フォーラム ちらし より）

平成17年10月の中央教育審議会「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」を踏まえ、学習指導要領全体の見直しを検討している中央教育審議会教育課程部会の審議経過報告の中では、今後の教育内容改善の方向として「人間力」の向上が示され、その基本的な考えとして、「確かな学力の育成」とともに「言葉」と「体験」がキーワードとなっています。

いわゆる学力の「二極化」が進行し、学ぶ意欲を喪失し学ぶことや思考することから逃避する子どもたちが増えている状況の中で、基礎・基本の学力をつけることと学ぶ意欲を高めることをどうとらえたらよいのでしょうか。一方で知識の新たな詰め込みが始まるのではないかと懸念もある中で、子どもの自発的な学びを引き出すにはどうしたらよいのでしょうか。また、学校現場では、今後の教育課程の編成をどのように進めていったらよいのでしょうか。

今回の教育フォーラムは、文部科学省中央教育審議会の教科専門部会の委員を務めている先生方をパネラーに招き、学習指導要領改訂の経過や現在の状況、今後の方向性について参加者の皆さんと共に考えていきたいと思えます。

【日時】 平成19年 2月 4日（日） 午後2:00～4:30

【会場】 山梨大学 教育人間科学部 M12教室

【パネリスト】

山梨大学教育人間科学部 国語教育講座（中教審国語専門部会委員）

教授 宮澤 正明（ミヤザワ マサアキ） 《国語》

山梨大学教育人間科学部 数学教育講座（中教審算数・数学専門部会委員）

教授 中村 享史（ナカムラ タカシ） 《算数・数学》

山梨大学教育人間科学部 生涯学習講座（中教審健やかな体専門部会委員）

助教授 中村 和彦（ナカムラ カズヒコ） 《体育・保健体育》

【司会】

山本 紘典 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター客員教授

【入場料】 無料

【対象者】 教員 学生 大学等の研究者 県内外の教育関係者 一般市民

【主催】 山梨大学教育人間科学部

【後援】 山梨県教育委員会 甲府市教育委員会

第3回期間採用者等研修会のご報告（山梨大学地域連携事業）

平成18年12月2日(土)に開催された今年度3回目の期間採用者等研修会に58名の期間採用や非常勤の先生方、学生が参加しました。研修では、元校長先生による講演や現在、指導的立場でご活躍中の小・中・高校の先生方からの実践報告とグループ討議、教員採用検査対策を実施しました。受講者からの感想は次の通りです。「とても参考になる話が聞け、自分の実践を振り返る良い機会になりました。」「この研修に参加すると、改めて『学び続ける』ことの大切さを感じます。期採は初任者と違って研修を受ける機会がほとんどないので大変ありがたいです。」「このような機会がまたあればと思います。3回の研修、とてもためになりました。」「日頃の学級経営で大変参考になるお話が聞いて本当に良かったです。このような研修がもっとあるとうれしいです。」「とても参考になるお話ばかりで、あっという間に時間が過ぎてしまいました。すぐに実践してみたいと思います。」「現場を経験しておられる期採の先生方と一緒に研修を受けさせていただくことができ、先生方からも学ばせていただきました(学生)。」



第4回教育臨床研究会のご報告

平成18年12月5日(火)に特別支援教育研修として、保護者のための家庭学習を支援する学習会「教育臨床研究会」を実施しました。今年度第4回目の教育臨床研究会では、講師に辻由樹氏(勝沼中学校教諭・本学大学院生)を迎え、中学校英語の指導について学び合いました。当日は、10名の保護者の方の参加があり、楽しくわかりやすく学ぶ英語教材を紹介していただきながら、家庭学習の方法を学習しました。次回は2月14日「特別な教育的ニーズへの支援を考えるー進級、進学への準備」を予定しています。どなたでも参加できますので、直接J号館多目的教室にお越しください。

第9回教育実践研究会のご報告

平成18年12月13日(水)16:30より総合研究棟(Y12教室)にて、ドイツのルートヴィヒスブルグ教育大学との研究交流報告会を開きました。ルートヴィヒスブルグ教育大学と本学は、平成14年3月に交流協定を結び、教員間の研究交流を毎年行っています。今年度は山梨大学から4名の教員が11月21日~28日の日程でルートヴィヒスブルグ教育大学を訪問しました。今回は派遣された教員から、ドイツの教育について、大学、小学校、特殊教育学校を中心に報告を行いました。あわせて平成19年度前期からのルートヴィヒスブルグ教育大学への学生の短期留学についての説明も行われました。当日は、教員や学生など20名程度の参加がありました。

第5回「教育相談室連絡協議会」のご報告（山梨大学地域社会連携融合プロジェクト）

平成18年12月19日（火）に第5回教育相談室連絡協議会を開き、相談事業の現況報告や「教育相談室連絡協議会規程」について協議しました。今回から附属4校園の教育相談担当者全員にご出席いただくことになりました。これは、教育相談にとって日頃からの連携が重要との認識から附属校園の協力を得て実施されることになったものです。また、附属校園の特別支援教育支援体制においても教育人間科学部との連携を強化することになりました。次回は2月20日を予定しています。教育相談室の備品も徐々に整備されてきました。教育相談室に関するご意見や利用についてはセンターまでご遠慮なくお寄せください。

第4回地域貢献教育学研究会のご報告

平成18年12月20日（水）、山梨県総合教育センターにおいて、第4回地域貢献教育学研究会を開催しました。今回は、総合教育センターからの情報及び研究の紹介ということで、内田淳研修主事から「算数プロジェクト」への取り組みの発表がありました。まず、PISA（生徒の学習到達度調査）やTIMSS（国際数学・理科動向調査）の結果や国や県が実施した小中学校教育課程実施状況調査の結果から特に論理的思考力の育成が必要であることが指摘され、このような状況をふまえ小学校算数科における具体的な指導方法の改善についての検討経過が報告されました。これらの取り組みをふまえ、具体的な指導方法を盛り込んだ「算数科授業指導例」を作成したことが発表されました。研究会では、「県の結果が、国の通過率に対して有意に下回っている理由はなぜか」「論理的思考力を高める取り組みが全ての子にとって有効なのかどうか？」等の質問や、読解力に関する質問も出されました。その後、本学数学教育講座の中村享史教授から、研究方法に関して、先生方の実感を伴ったアンケートを元にしたことの意義や、学習指導要領の改訂に関わって、言葉や体験の重視、特に活動を重視することの意義を強調するコメントと、来年4月に実施予定の学力調査の結果を授業改善の資料として役立ててほしいとの助言をいただきました。



第5回地域貢献教育学研究会のご報告

平成19年1月11日（木）、県総合教育センターにおいて、第5回地域貢献教育学研究会を開催しました。今回は、大学からの情報及び研究の紹介ということで、数学教育講座の中村享史教授から「算数・数学科における思考力・表現力 - 大規模調査の問題から - 」と題した講演がありました。教育課程実施状況調査や全国的な学力調査、予備調査の算数・数学の具体的な問題を取り上げて、その回答の分析や無回答の割合の多いことの問題点等を指摘していただきました。また、児童質問紙調査と問題をリンクさせていく必要性や学習指導要領改訂に関わってのお話、さらに思考力・表現力を育てる授業のあり方についてもご示唆をいただきました。研究会では、「数学的な考え方が、数学的な思考力に変わってきたのはなぜか」「新しい指導要領では授業時間数はどうなるのか」「自分の考えを数学的に表現したり解釈したりする活動について詳しく知りたい」といった質問や、「習得型の教育と探求型の教育について」の意見も出され、より内容を深めることができました。



高等学校情報科研究授業のご報告

平成 19 年 1 月 15 日（月）に、山梨大学戦略的プロジェクト（平成 18 年度地域貢献事業支援プロジェクト）「情報通信技術を活用した教育実践・カリキュラム開発支援」の事業の一環として、山梨県立石和高等学校で研究授業が行われました。同校の常盤武史教諭による「第 2 章 コンピュータのしくみ 3 節 情報を工夫して扱おう」の授業を 10 名の県内情報科教員や山梨県教育委員会指導主事らが参観しました。その後、授業検討会において、生徒が身につけるべきスキルを一目でわかるようにした「マニュアル」スタイルの教材プリントによる学習や、獲得すべきコンピュータ・スキルの到達目標リストの明示と生徒による自己評価、その後の教師による個別指導などについて意見交換しました。授業検討会に参加した教員対象のアンケートからは、教科書にとらわれない自由度の高い授業や、わかりやすいマニュアル、自己評価の方法が参考になった、という回答が多く寄せられました。当教育実践総合センター情報教育研究部門の山下助教授と成田助教授は、授業検討会の司会や、この研究授業の事前検討会における助言等を通して、山梨県高等学校教育研究会情報科部会の教育実践活動を支援しました。

これまでのセンターだよりの一部は <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/pub/nl/> で見るすることができます。